

2014年8月11日

## 博報堂、慶応義塾大学前野隆司教授との共同研究により、 地域の幸福度を測定する「地域しあわせ風土調査」を実施

1位は沖縄県。鹿児島県、熊本県、宮崎県、東京都と続く  
—人口減少時代の地方を救う「地域しあわせラボ」設立—

株式会社博報堂のソーシャルデザイン専門組織 hakuodo i+d は、慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科（前野隆司研究科委員長／教授）らと共同で、地域の幸福度を測定するオリジナル調査「地域しあわせ風土調査」を、全国15,000人を対象に実施いたしました。

当調査は、人が幸せな人生を送るために必要な心構え・気持ち・行動姿勢を「地域のしあわせ5指標—①やってみよう指標 ②ありがとう指標 ③あなたらしく指標 ④なんとかなる指標 ⑤ほっとする指標」と定義し、これらの指標を元に幸福度をスコア化したものです。

それぞれの指標（感情・意欲・気持ち）を日常どの程度感じるかを「風スコア」、それぞれの指標を後押しする土壌、風土がどれくらいあるかを「土スコア」、今の気運をあらわす「風」と今後の礎となる「土」の合計を「地域しあわせ風土スコア」とし、47都道府県の幸福度を測定いたしました。この度の調査結果では、「しあわせ風土スコア」1位は沖縄県。2位以降は、鹿児島県、熊本県、宮崎県、東京都と続く結果となりました。

この取り組みは、hakuodo i+d と慶應義塾大学と共同で2014年4月に発足した「地域のしあわせ」をテーマにしたまちづくりを支援する『地域しあわせラボ』が中心となって実施しています。

『地域しあわせラボ』では、今後人口減少が急激に進む日本、地域における住民のしあわせの本質と構造を調査・研究し、今回の「地域しあわせ風土調査」をベースに、全国の自治体向けに、住民の幸福度を最大化するために必要なまちづくりや地域ビジョン・総合計画づくりを支援する調査・研究・コンサルティングサービスを提供してまいります。

また、リサーチレポート「ローカル・ハピネス」を適時発表してまいります。

ラボの活動第一弾として、2014年5月には、高知県佐川町にて佐川町民向けの地域総幸福度調査を実施し、町民の幸福度を高めるための町の10年ビジョン「佐川町第五次総合計画」策定をサポートしております。

これらの活動を通じて、地域の活性化支援を図るほか、地域の連携を育む機会を作ることを目指し活動してまいります。

① 沖縄県 (834.0)

② 鹿児島県 (738.0)

③ 熊本県 (730.0)

4 宮崎県 (729.3)

5 東京都 (712.3)

6 福岡県 (703.3)

7 兵庫県 (688.7)

8 長崎県 (688.0)

9 石川県 (686.3)

10 岩手県 (679.7)

11 長野県 (670.0)

12 静岡県 (669.7)

13 福井県 (668.7)

14 宮城県 (668.0)

15 高知県 (667.0)

16 佐賀県 (665.0)

17 鳥取県 (664.3)

18 滋賀県 (664.0)

19 島根県 (663.3)

20 山形県 (662.7)

本件に関するお問い合わせ：hakuodo i+d 算 (TEL:03-6441-7752)  
報道関係者様からのお問い合わせ：博報堂 広報室 西尾・落合 (TEL:03-6441-6161)



## 参考資料1：「地域しあわせ風土調査」調査概要

### 調査概要

調査地域： 全国 47 都道府県

調査時期： 2014 年 2 月 28 日～ 3 月 10 日

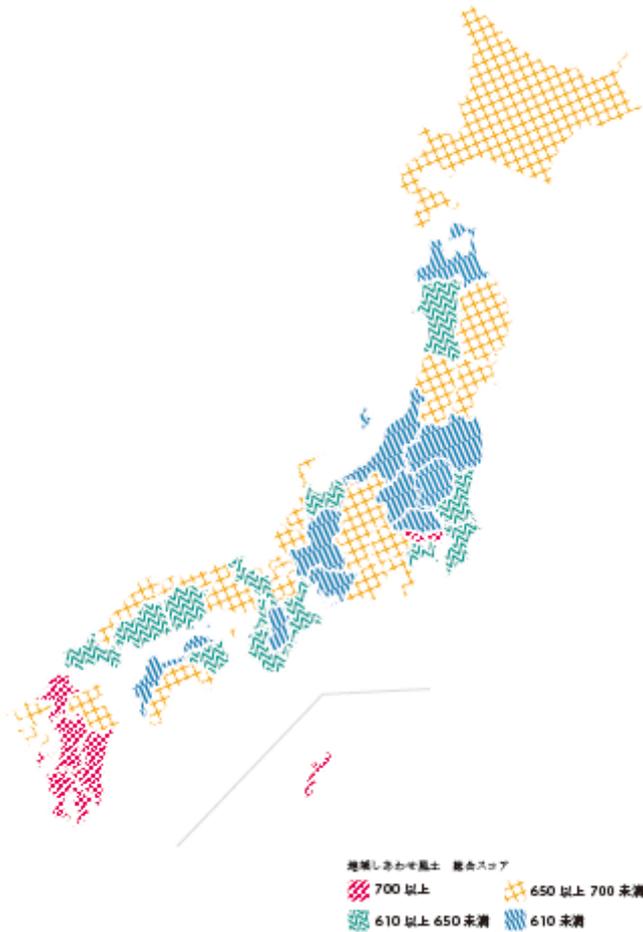
調査方法： インターネット調査

調査対象者： 20 歳から 64 歳までの男女、現在の地域に 3 年以上お住まいの社会人

サンプル数： 15,000

\* 各都道府県 300 サンプル（北海道のみ道東・道央・道南・道北各 300）、  
男女各 150 名、20 - 34 歳・35 - 49 歳・50 - 64 歳 各 100 名

### 地域しあわせ風土スコア総合ランキング



①	沖縄県	(834.0)
②	鹿児島県	(738.0)
③	熊本県	(730.0)
4	青森県	(729.3)
5	東京都	(712.3)
6	福井県	(703.3)
7	兵庫県	(688.7)
8	長崎県	(688.0)
9	石川県	(686.3)
10	埼玉県	(679.7)
11	長野県	(670.0)
12	静岡県	(669.7)
13	福井県	(668.7)
14	宮城県	(668.0)
15	高知県	(667.0)
16	佐賀県	(665.0)
17	鳥取県	(664.3)
18	滋賀県	(664.0)
19	島根県	(663.3)
20	山形県	(662.7)
21	大分県	(662.3)
22	北海道	(657.8)
23	山梨県	(656.7)



## 参考資料3：スコア算出方法

### 「地域しあわせ風土スコア」の算出方法

10の質問の5段階評価（非常によく当てはまる／少し当てはまる／どちらともいえない／あまり当てはまらない／全く当てはまらない）のトップ2ボックス（非常によく当てはまる＋少し当てはまる）の合計パーセントを足したものを「地域しあわせ風土スコア」（「風」「土」それぞれのスコアを加算）と定義。

#### 「風」10の質問

- やってみよう指標
  1. 得意としていることがある
  2. 何か、目的・目標を持ってやっていることがある
- ありがとう指標
  3. 人を喜ばせることが好きだ
  4. いろいろなことに感謝するほうだ
- なんとかなる指標
  5. いまかかえている問題はだいたいなんとかなると思う
  6. 失敗やいやなことに対し、あまりくよくよしない
- あなたらしく指標
  7. 自分と他人をあまり比べないほうだ
  8. 他人の目を気にせずに、自分がやるべきだと思うことはやる
- ほっとする指標
  9. 現在の暮らしや、自分の将来への不安は少ないほうだ
  10. 自分は安全な生活を送っていると思う

#### 「土」10の質問

- やってみよう指標
  1. 自分の好きなこと、得意なことに熱中している人が多い地域性、風土
  2. 目標を持って頑張る人を応援する地域性、風土
- ありがとう指標
  3. 助け合いや感謝の気持ちを大切にしている地域性、風土
  4. 人間関係が豊かで、挨拶や笑顔あふれる地域性、風土
- なんとかなる指標
  5. 挑戦することを応援し、失敗を許容する地域性、風土
  6. 楽観的、前向きな地域性、風土
- あなたらしく指標
  7. 人と違うこと、個性を大切にしている地域性、風土
  8. よそもの、若者、マイノリティなど多様な人を受け入れる地域性、風土
- ほっとする指標
  9. 食べものや、住まいには困らない地域性、風土
  10. 身の危険を感じず、安全に暮らせる地域性、風土

## 参考資料4 地域しあわせラボ

### 活動目的

今後人口減少が急激に進む日本、地域における住民のしあわせの本質と構造を調査・研究することで、地域の人口減少の抑制としあわせ度向上に貢献する。



地域  
しあわせ  
ラボ

by 地域みらい大学

### 活動内容

#### ①自治体向けコンサルティングサービス

全国 15,000 人に対する「地域しあわせ風土調査」の結果をベースに、以下4段階で人口減少抑制と地域の幸福度向上のためのまちづくり、政策や計画づくりとその実践を支援する調査・研究・コンサルティングサービスを提供してまいります。

以下のような課題に直面している自治体の皆様はお気軽にお問い合わせください。

自分たちの地域の幸福度は全国的にみてどの程度なのだろうか？

どんなところに弱み、強みがあるのだろうか？

住民の定着、移住（流入）を促すために、何をすべきなのだろうか？

どんな計画、ビジョンをつくり、政策を実施していくべきなのだろうか？

女性が働き、子どもを産み、育てやすい地域とするために何が必要なのだろうか？

- [診断] : 自地域のしあわせ風土および人口構造に関する調査、分析、強みや弱みの把握
- [企画] : 地域しあわせ風土向上、人口減少抑制のための政策・ビジョン・計画づくり
- [実践] : ソーシャルデザインの手法を活用した住民参加による計画の実践
- [追跡] : 企画・実践の進捗と幸福度の変化の追跡調査とフィードバック

その第一弾として、高知県佐川町にて、佐川町民向けの「地域しあわせ風土調査」を実施し（診断）、その結果にもとづく「佐川町第五次総合計画」の策定（企画）とアクションプラン作り（実践）を現在実施中です。

#### ②リサーチレポート「ローカル・ハッピーネス」の発行（8月より月に一度の発行）

「地域しあわせ風土調査」結果を様々な視点で分析し、レポートします。

- vol. 01 8月上旬 地域しあわせ風土 47 都道府県ランキング
- vol. 02 9月上旬 地域のしあわせとコミュニティ
- vol. 03 10月上旬 しあわせ風土向上と政策・インフラ
- vol. 04 11月上旬 女性がしあわせな地域になるために
- vol. 05 12月上旬 移住としあわせ：人はどこで暮らしたいのか？

### 前野隆司氏

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

委員長／教授

東京工業大学修士課程修了。キャノン株式会社、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、ハーバード大学客員教授、慶應義塾大学理工学部教授等を経て、現在、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授。博士（工学）。ロボティクス、ヒューマンマシンインタフェースから、イノベーション教育、地域活性化、哲学・倫理学、共感学・幸福学まで、人間に関わる社会・技術デザインの研究に従事。「幸福学」研究の第一人者。著書に「幸福のメカニズム（講談社現代新書、2013年）」他。



### 寛裕介

株式会社博報堂 hakuodo i+d / issue+design

代表／博士（工学）

一橋大学社会学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了（工学博士）。1998年株式会社博報堂入社。2008年 issue+design 設立。以降、社会課題解決、地域活性化のためのデザイン領域のプロジェクトに取り組む。著書に『ソーシャルデザイン実践ガイド』『地域を変えるデザイン』など。人との出会いを楽しむ旅のガイドブック「Community Travel Guide」、震災ボランティア支援の「できますゼッケン」、育児支援の「親子健康手帳」などでグッドデザイン賞、日本計画行政学会・学会奨励賞、竹尾デザイン賞、Biennale Internationale Design Saint-Etienne 2013（フランス）他国内外の受賞多数。

